

オリテック21(岩手・矢巾町)

社会インフラの構築や維持管理で重要な役割を果たす建設産業。「東北のチカラ」は、地域に根差した事業活動をベースに挑戦し続ける東北エリアの建設関連企業にスポットを当てる。

2006年12月に創業したオリテック21は、橋梁のメンテナンス業務などをターゲットにした製品販売、

初回は独自開発した橋梁用排水パイプを武器に、全国規模で事業を展開する岩手県矢巾町の「オリテック21」(櫻岡賢拓社長)を紹介す

及川会長(左)と櫻岡社長



点検調査や補修補強工事を手掛けてきた。橋梁の長寿命化を実現する上で重要な役割を担う製品として開発

鉄を流し込み一体成形することで、現場での施工効率が高まるといふ。鑄型を作れば量産も可能で製造コストが抑えられる。

床版の厚みに応じて数種類の製品をストックしてお

で生まれた技術だ。地元のがオリテック21を起業したきっかけだったと振り返る。

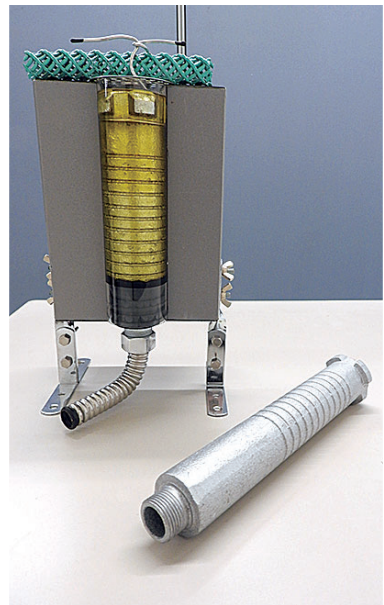
南部鉄器の技術、橋梁用排水パイプに

したのが橋梁用排水パイプ「鑄心管」。岩手県が誇る鑄物・南部鉄器の技術を取り入れた鑄心管が成長の原動力になっている。

り、現場の状況や要望に応じて素早く提供できる。既に設備で設置が義務付けられている排水管の場合、床版の削孔工程が簡略化でき、導水パイプの位置決め(係止)も確実となる。

鑄心管は13年度に製品化した。排水パイプは複数部品で構成するのが一般的だが、鑄心管は南部鉄器と同じ製法を採用。型に溶けた

鑄心管を主力製品に育てた及川謙二代取締役会長は「南部鉄器は岩手の土壤



橋梁用排水パイプ「鑄心管」

がオリテック21を起業したきっかけだったと振り返る。

岩手県や東北地方整備局が発注する橋梁の上部工や補修の工事で実績を重ねた。鑄心管は08年3月に国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録され、現在、東京や四

「東北のチカラ」は東北エリアに拠点を置き、地域に根差して事業を展開する企業を紹介していきます。

信したいという思いがあった」と開発経緯を話す。及川会長は橋梁建設会社に務めた経験もある。子どもの頃から好奇心と探究心が旺盛だったといい、「仕事のなかで生まれた問題意識」

る。選ばれる会社であり続ける。選ばれる会社であり続ける。選ばれる会社であり続ける。

「東北のチカラ」は東北エリアに拠点を置き、地域に根差して事業を展開する企業を紹介していきます。

独自開発「鑄心管」を全国展開

